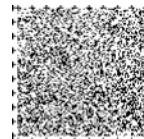


社会福祉法人 創文会
相談支援事業所 ハートピア出雲 情報誌「トピア」



Topia

第54号



<発行所>
相談支援事業所
ハートピア出雲

〒693-0014
出雲市武志町 693-6
Tel: 0853-23-2720
Fax: 0853-23-2721
E-mail: shien@heartpia.or.jp
ホームページ
<http://www.heartpia.or.jp>

地域交流の輪が繋がりました！

～8月5日、8月11日 ブルーベリー収穫体験～

8月5日、11日に鳶巣コミュニティセンターにて、ブルーベリー収穫体験・ブルーベリージャム作りに参加させて頂きました。鳶巣コミュニティセンターでは近年「ブルーベリーを地域の特産品にしよう」と同地区の環境保全委員会と協働して【みんなでやろう！！ブルーベリープロジェクト】を立ち上げ、精力的に活動をしておられます。

ブルーベリーは「ティフブルー」「ノビリス」の2品種の木があり、鳶巣コミュニティセンターから約200m先にある畑に収穫に出かけました。木は40本程度あり、たくさんの実が鮮やかな藍色に染まり美味しそうに輝いていました。ステップの子供たちはプロジェクトメンバーの方からブルーベリーの獲り方や注意事項を聞き、一人一人に手渡されたカップに色付いたブルーベリーを入れていき収穫を楽しみました。作業後は鳶巣コミュニティセンターのスタッフさん手作りのブルーベリージャムのヨーグルトムースを美味しくいただいてから、キッチンに移動しジャム作りに参加しました。ブルーベリージャムは、ブルーベリー・砂糖（てんさい糖）・レモン汁を鍋に入れ中火でコトコト煮込んで作ります。ステップの子供たちは順番に木ベラを使い、ジャムが焦げないようにゆっくり混ぜていきました。レモン汁を入れることで鮮やかな紫色になり、とても美味しく長期保存にも効果的だと、鳶巣ブルーベリープロジェクト副会長の園山悦子さんから教わりました。



●ブルーベリー収穫の様子

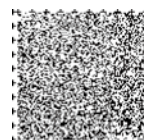
出来上がったブルーベリージャムは、当日参加していない子供たちにも食べてもらえるようにと、ステップへ持ち帰り、後日、子供たちと一緒にホットケーキを焼き、ホットケーキの上にたっぷり手作りのブルーベリージャムをのせ日々美味しくいただいています。

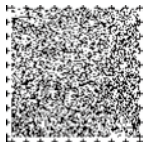
今回ブルーベリー収穫・調理の活動に参加し、ブルーベリーを通して地域交流の輪がまた一つ繋がり、ハートピア出雲ステップには元気な子供たちがたくさん通ってきていることを知ってもらえる良い機会になったと思います。新型コロナウイルスの影響により、人と人との距離はソ

2ページにつづく

もくじ

- ブルーベリー収穫体験・・・・・・・・・・1 p～2 p
- 視覚障がいの方のコロナ禍での困りごと・・・・・・・・2 p
- ろうあ者のコロナ禍での困りごと・・・・・・・・3 p
- 災害時のコロナ対応備品忘れずに・・・・・・・・4 p





シャルディスタンスで離れていますが、地域の方との心の距離はどんどん近くなり、お互いに楽しい時間を過ごしていると実感しています。

これからも鳶巣コミュニティセンターを通しながら地域の方と積極的に交流し、子供たちが色々な人との関わり・思いやりを学び、すくすく育っていけるようサポートしていきたいと思います。
(文：放課後等デイサービスステップ作業療法士 小島 弓依)



ハートピア出雲ステップの皆さんと今年もブルーベリー交流会を開催しました。

今年は初めての収穫体験でしたが、短時間でもみなさん一生懸命収穫してくださり2キロも収穫出来ました。終わったあと「なんだか分からないけど、今日はとっても幸せです。」という感想をいただき、今年はコロナ騒動で暑くてもマスク着用の毎日ですが、久しぶりに心がとても温かくなりほっこりしました。

コロナ渦の中、様々なことが出来なくなり、生活様式も変わりましたが、ハートピア出雲ステップのみなさんとの交流をとおして、私自身が気づかされとても幸せな気持ちになりました。

こんな素敵な交流会、これからもずっと続けていきたいと思います。

(文：出雲市鳶巣コミュニティセンター チーフマネジャー 山崎 順子)



≡ 視覚障がいの方の悩み ～コロナ禍での困りごと～【part 1】 ≡

いつぞやNHKのニュースか何かで見たもので、うろ覚えなのですがあるお二人の視覚障がいをお持ちの方がこのコロナ禍でご苦労なさっていることが伝えられていましたので記事にしました。

その方（女性）はヘルパーさんを伴って外出される際、普段はガイドヘルパー（※注釈）さんの肩に手を置いて一緒に横並びで道を歩くのだそうですが、コロナが発生してからはそのスタイルだと周囲の無理解を感じるとおっしゃっていました。一歩外に出れば「どうして二人は密着して歩いているの？」「感染して危ないのでは？」などなど苦言を呈する方もいらっしゃるようです。その方にとっては安全に出歩くために必要なスタイルなのですが、どうしても理解してもらえない現実がある・・・。

一方、別の視覚障がいの方のことも取り上げられていました。その方（男性）はお一人で外出されていましたが外出先での感染リスクを感じながらもエレベーターのボタン、手すり、手洗い場の蛇口の栓などに積極的に触れないといけない現状を話されていました。

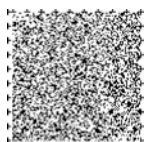
少し前にテレビで見たものなので、ちゃんと窮状をお伝え出来たかわかりませんが、概ねそんな内容でした。

(文：ワークセンターフロンティア利用者 米山 修二)



※「ガイドヘルパー」は移動介護従事者の通称（外出介護員と呼ばれることもあります。）で、障害のある方の外出介助をする職種です。介護職員初任者研修（旧ホームヘルパー2級）は、介護保険制度上の資格ですが、ガイドヘルパーは障害者総合支援法に基づいています。

ガイドヘルパーのおもな仕事内容は、視覚障害、全身性障害、知的障害や精神障害のため1人で移動することが困難な方が安全に外出できるようにサポートすることです。具体的な利用シーンとしては、買い物や通院、通勤・通学のほか、散歩や旅行などの余暇活動などがあげられます。(webより抜粋)



ろうあ者にとって「口話」は絆 ～コロナ禍での困りごと～【part 2】

新型コロナウイルスの感染拡大が起こったため、厚生労働省から次の通知がありました。

『三密を避けましょう。集団感染は、「換気が悪く」、「人が密に集まって過ごすような空間」、「不特定多数の人が接触するおそれが高い場所」という共通点があります。できるだけ、そのような場所に行くことを避けていただき、やむを得ない場合には、マスクをするとともに、換気をする、大声で話さない、相手と手が触れ合う距離での会話は避ける、といったことに心がけてください。手洗いや咳エチケットをお願いします。』と注意があり、マスクの着用をすることになりました。しかし、手話ができる者同士であっても、マスクは意思疎通の壁になります。手話でのやりとりには、手だけでなく口の動きや表情も欠かせません。例えば、手話の「弱い」と「認める」は手の動きが同じため、口や表情の違いで分かる単語です。感染防止のためにマスクを着用して手話を表現する時、マスクを外したり着けたりを何回もすると大変疲れます。

買い物に行くときも不安があります。これまではスーパーやコンビニなどでの買い物の際は、手話ができない相手でも、ゆっくりと話してもらえれば口の動きだけで内容を把握できる場合もありました。でも、現在店員がマスクを着けていて、何を話しているのか分かりません。口元が見えないことで意思疎通に困ります。

病院では聴覚障害者は手話通訳派遣依頼をよく利用しています。感染症発生の場合は、手話通訳者の感染を防止するため原則マスク着用で十分な意思疎通ができません。今、聴覚障害者が病院受診する際などに手話通訳者の同行が困難な場合、出雲市福祉推進課でタブレット端末やスマートフォンなどのテレビ電話機能を使って別の場所にいる手話通訳者が通訳する遠隔手話サービスの準備が進んでいるようです。通訳者をそばに付ける必要がなく、感染リスクから守ることにもつながります。

更にテレビニュースで知事の記者会見に手話通訳が付いていないことにも初めは不満の声があがりました。今は、県知事の定例記者会見に手話通訳が付きました。コロナ禍に伴って記者会見に手話通訳をつける自治体が急増し、現在 47 都道府県全てで手話通訳が付きました。

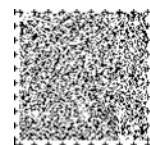
現在、手話通訳者は透明マスク（マウスシールド）を利用しています。そのために、口話も手話の表情も伝わり安心です。聴覚障害者にとって口話はコミュニケーション補助の一つであることについて、社会の理解がさらに進んでほしいと思います。（文：ワークセンターフロンティア利用者 島根県ろうあ連盟事務局長 大瀧 浩司）



聴覚障害者にとって口話はコミュニケーション補助の一つであることについて、社会の理解がさらに進んでほしい

災害発生時の避難用持ち出し袋に、コロナ対応備品を忘れずに！

～コロナ禍での心構え～



「マイ体温計」に「マイせっけん」―。新型コロナウイルスの影響が続く中では、避難用持ち出し袋の中身を追加する必要があるようだ。感染対策の備品リストを作成した日本赤十字北海道看護大の根本昌宏教授に、考えを聞いた。

東京大の松尾一郎客員教授らと作成したリストでは、マスクやアルコール消毒液などを提示。共用を避けるため体温計やせっけん、ティッシュペーパーも持参するよう促した。ペーパータオルは手を拭くだけでなく、輪ゴムと組み合わせてマスクをつくることもできるという。

感染防止に重要な手洗いが断水によってできない場合に備えて、ウェットティッシュの用意を推奨。避難所で多くの人が触れるドアノブなどからの感染を防ぐため、使い捨てのビニール手袋を着用するよう勧める。無ければポリ袋でもいい。給水袋代わりにになる。

多くの被災地に足を運んだ根本教授は「泥だらけで生活している人もいた」と振り返る。入浴や着替えもままならないことから、食事を汚さないため、ビニールエプロンやごみ袋を利用するようアドバイスした。

携帯トイレは必須と指摘。車中泊などによるエコノミークラス症候群を防ぐため、水を多めに用意し、十分に水分をとるよう求めた。

「感染を恐れ、薬がなくなっても通院を控える人がいると聞くが、災害時はしっかり薬を飲み、体調を保つことが大切」と根本教授。常備薬とお薬手帳があれば、かかりつけ医でなくても症状を推察できるといい、「発熱などがあつた際にコロナかどうか見分ける手掛かりになる」。急な体調悪化などに備え、住所や氏名、連絡先を記したメモを残すべきだという。

コロナ対応備品忘れずに



※日本赤十字北海道看護大の根本昌宏教授、東京大の松尾一郎客員教授らによる

※令和2年6月1日付け山陰中央新報の記事から抜粋しました。

よろしくお願いします！～新人職員の紹介～



持田 瑞枝

8月からハートピア出雲スマイルの指導員として勤務しております持田瑞枝と申します。子供達の笑顔と共に頑張っていきたいと思います。よろしくお願いします。

編集後記

◆マスクを着用する生活スタイルが定着してきましたけど、今年の夏のマスク生活は本当に辛いものがありました。口、鼻周りが蒸れて暑くなりただでさえ熱中症に気を付けて過ごす時期でしたので。おまけに不織布マスクの表裏に悩んだこともありました。耳掛けゴムの接着面があるほうが内側（裏側）だと単純に思っていたが実はメーカーによって仕様が異なり統一されていないことを知り、自分の使っているマスクの箱を再確認。ひえー！表裏間違っていて着けていた！っというへまもしちゃいました……。【編集長 米山】

